

## 「2025年度香港中文大学サマープログラム派遣参加報告書」

京都大学経済学部1年 今道 由菜

- ① 中国語に関しては、留学開始時点での学習歴が大学の中国語の授業（前期）のみだったので、正直3週間という短い時間で拙い中国語を上達させることは難しいだろうと思っており、香港での生活を楽しむことをメインにしようと考えていた。しかし実際は、選択した中国語のクラスの難易度が私にとってはかなり高くやりがいのあるもので、留学の中で中国語の授業の存在感は非常に大きいものとなった。授業内容についていけるような中国語力を身につけるために、友人も含めて人と話す時にはなるべく中国語も使ってみるように心がけたり寝る前に勉強会を開いたりと、生活の中に中国語を取り入れることができたように思える。最初から最後までクラスメイトの足を引っ張ってしまってはいたが、先生や先輩方にたくさん教えて頂いたり友人と分からぬところを話し合ったりして授業に精一杯取り組んだことで、確実に中国語力は向上した。これは（体感では）非常に長く内容の濃い授業をほぼ毎日受ける環境と、自分と同じように中国語を頑張りたいと思って一緒に授業を受けているクラスメイトの存在のおかげで得られたもので、大変貴重な機会だったと改めて感じた。この経験をただの思い出として消化してしまうのではなくこれから学習のモチベーションに繋げ、今まで以上に中国語の勉強に力を入れていきたい。
- ② 香港では学習面以外にも、主に休日の観光の時に様々な体験ができた。大学側が観光名所に連れて行ってくれるツアーに加えて一日中自由に時間を使える日が4日間もあったので、思い思いに香港を満喫することができた。普段なら初めての場所でも先導してくれる人がいるが今回は自分たちだけで考え方行動することが必要となり、中々スムーズにいかない場面も多かったが、店員さんや現地の人に話しかけて何とか意思疎通をするそのやり取りがとても楽しかった。私は日本で道行く人に話しかけるのはかなり難易度が高いことなのだが、香港だと母語ではない言葉で話しかけるからかそのハードルがぐっと下がり、広東語や中国語を使ってみたい+香港の人と話してみたい気持ちも手伝って、その場限りではあったが沢山の良い出会いをすることができた。
- ③ 平日は午前と午後にそれぞれ2時間45分（休憩込み）の授業があった。課題の量はそこまで多くは無かつたが、授業にちゃんとついていくテ스트で点数を取れるようにするための準備には時間が掛かった。昼休みが2時間以上もあったので、初めての学食やご飯屋さんに行ってみたり、学内のタピオカ屋さんに行ったり、課題やテスト勉強さらには睡眠の時間に充てたりと、いろいろな使い道があった。授業後も電車に乗って街に出ることもあれば、学内散策をしたりそのまま寮に帰ってゆっくりする日もあり、平日でも十分楽しく過ごすことができた。またオリエンテーションやツアー、その他プログラムなどでは中文大学の学生の方と交流する機会があり、その後もご飯に連れて行ってもらうなど親切にしていただいた。
- ④ 私はただ香港に行きたい、中国語をもっと話せるようになりたい、という思いだけで今回の短期留学に参加しており、その後については迷うことばかりで深く考えていなかった。しかし香港で様々な新しい体験をして、それぞれ目標や理想を持っている他の参加者から刺激を受けながら一緒に3週間過ごす中で、私の中の香港に対する特別な思いがどんどん強くなっていくのを感じた。現時点では、これからは香港での交換留学を一つの大きな目標にしようと考えている。私は自分の学びたい学問分野もまだよく分からず、どんな仕事に就きたいのかすらぼんやりとも浮かばないので資格勉強に踏み切る事もできないという現状に焦りを感じており、準備も含めて相当の時間と労力のかかる交換留学を視野に入れてしまうことはかなり不安だ。だが今一番魅力的に感じている交換留学を一旦軸において考えることで、見通しが立たない中でも少しでも自分の望む方向に近づけていければ良いなと思う。